

## 馬頭町閉町

馬頭町閉町式は九月十九日、総合福祉センター集会所で行われました。

式典には、町議会関係者や福田富一栃木県知事、地元議会議員、渡辺良治小川町長、大谷範雄南那須町長、福田弘平烏山町長、滋賀県秦荘町長の来賓のほか、町民約二百人が出席しました。



式典で町長は「今回の合併で馬頭町が無くなるのは誰もが寂しいものがあります。小川町との合併は決してゴールではなく新しい町への第一歩です。これからは馬頭町、小川町両町の文化が融合し、新たな「那珂川町」の文化として開花するものと確信しています。馬頭町の幕を降ろすにあたり、町振興、発展のために命を燃やし、多面のご尽力、ご協力をいただいたすべての町民の方に心から感謝します」とあいさつしました。

その後、町内のコーラスグループ「藍」により町歌が合唱され最後に町長、議長により町旗降納が行われ、五十年以上にわたる馬頭町の歴史に幕を閉じました。

## 馬頭町役場前で「閉庁式」

馬頭町の閉庁式は、九月三十日午後五時から庁舎玄関前で行われました。

式には町長、議長、助役、教育長、職員と町民など約百五十名が玄関前に集まりました。

町長から「馬頭町五十年の歴史に幕を閉じることは寂しいことであるが、無事退任できることは幸せと思う。いろいろなことがあったが、無事合併できてよかった。従来からの住民サービスは、大きく方向を変えることなく行ってもらいたい」とあいさつしました。

最後に、町長と議長により「馬頭町役場」の銘板が外されました。



退任式で町長は、「馬頭町と小川町、力を合わせてこれからも新しい町づくりで職員一丸となって頑張ってほしい」とあいさつしました。

職員から記念品と花束が贈られ助役、教育長らとともに庁舎を後にしました。



## 自治功労者表彰式

九月十九日、総合福祉センター会議室で平成十七年度の自治功労者の表彰式が行われました。

自治功労者の表彰は、町の自治・教育・文化・産業の発展に貢献した方を表彰するものです。今回は、教育委員会委員、農業委員会委員をはじめ社会教育委員や図書館協議会委員など十七名が自治功労者として表彰されました。また、行政や学校などに寄付された方、八名に感謝状が贈られました。



# 小川町閉町

小川町閉町式は九月二十五日、総合福祉センターあじさいホールで行われ、県知事などの来賓や町民約二百五十人が出席しました。

式典で渡辺町長は「小川町の名が消えてしまうのは一抹の寂しさがあるが、合併しても山河は消えず、ふるさとを愛する心、人々の想いは変わらない。これからは新生那珂川町民としての郷土を愛する心

が一日も早く一体となり、明るい未来が全町民共働のもとに創造されていくことを願う」とあいさつしました。

その後、閉町経過報告や県知事ほか地元選出県議などの来賓祝辞があり、小川中学校合唱部の生徒といっしょに小川町民の歌を斉唱し、会場は大きな感動に包まれました。

最後に町旗が静かに降ろされ、町長と議長が箱に納め、町制施行以来六十七年の歴史に幕を下ろしました。

式典終了後、ソメイヨシノの記念植樹、那須小川まほろば太鼓の公演があり、あじさいホールに訪れた約二百五十名の町民が小川町最後の力強い演奏に酔いしれました。



## 小川町役場前で「閉庁式」

小川町民に三十六年間親しまれてきた小川町役場の閉庁式が九月三十日、庁舎前で行われました。

百十人の職員を前に渡辺町長は、「この庁舎は、十月一日に那珂川町役場総合支所として生まれ変わる。今まで以上に住民に愛され、親しまれ、その機能を発揮されることを念願する」とあいさつ。玄関前に掲げられていた「小川町役場」と書かれた銘板を議長とともに布にくるみ、万歳三唱で締めくくりました。

その後、庁舎内で特別職の退任式が行われ、渡辺町長は「公平という言葉が胸として、那珂川町のために頑張ったほしい」とあいさつ。花束を受け取り、職員に見送られながら庁舎を後にしました。

